



伊勢路をゆっくり歩く

高橋 司 たかはし・つかさ

弁護士。1963年生まれ。北海道大学大学院法学研究科修了。
「公事宿法律事務所」代表。

暦の上では晩秋はあるが、私は、紅葉がようやくちらほらと見られるようになつた伊勢路に向かつた。自宅の神棚は伊勢神宮から頂いたもので、神棚にお供えする角祓いも伊勢神宮から頂くため、毎年、霜月の下旬ころから師走の初旬ころにかけて神宮を参拝させていただいてきた。もう20年くらい続いている。

スケジュールに余裕がない時には日帰りといふことも数回あった。そういうときは、外宮に向うこともできず、バスの車窓から手を合せながら外宮を通り過ぎ、一路、内宮に向かつていた。日帰りの時の内宮滞在時間は70分くらいしかなかつたが、それでも角祓いをいただくために、また、自分なりに1年間を振り返るために参拝してきた。しかし、コロナ禍の今はフライ特が減便となつており、日帰り泊と後泊をして参拝させていただくこととなつた。

五十鈴川をゆっくりと見ながら宇治橋を渡つていく。その後は、いつもどおり砂利が敷き詰められた参道を歩く。以前から感じ続けてきたことではあるが、内宮参道の砂利の下に1年前の自分の思いが横たわつていて、1年後、同様に砂利を一步一歩踏みしめて歩いていると、踏みしめる際に生じる音を通じてその時の自分の思いが跳ね返つてくる感じがしている。

毎年毎年、同じ参道を歩く。その参道の砂利の下に、自分の気持ちや思いが層をなして折り重なつて待ち伏せされているとでもいうのであるうか、毎年不思議な感じを持ちながら歩いてきた。

このように、伊勢神宮への参拝は、

帰りといふことも数回あった。そういうときは、外宮に向うこともできず、バスの車窓から手を合せながら外宮を通り過ぎ、一路、内宮に向かつていた。日帰りの時の内宮滞在時間は70分くらいしかなかつたが、それでも角祓いをいただくために、また、自分なりに1年間を振り返るために参拝してきた。しかし、コロナ禍の今はフライ特が減便となつており、日帰り泊と後泊をして参拝させていただくこととなつた。

名古屋駅から近鉄特急に乗車して伊勢市へ向かうのであるが、席に座るとお守りを購入する方々の名前などを小さなメモ帳に記載する。参拝の折りに購入するお守りの数は、ここで、今回は初めて伊勢市周辺に前泊と後泊をして参拝させていただくこととなつた。

おかげさまで毎年続けることができているが、私は、お世話になつてきた方々ご本人や、そのご本人のご家族で病気などを理由に体調を壊されている方々には神宮からお守りを頂き、北海道に戻るとそれをお配りさせていただってきた。

猿田彦大神はニニギノミコトの先導を仰せつかつたことから、猿田彦神社はみちひらき、方位除けの神社として信仰されている。これから的人生ににおける思い描く弁護士の姿、事務所経営の形など、いわば集大成を図るにとつては、「みちひらき」の神を祭神とする猿田彦神社を参拝することはとても重要なことであった。また、猿田彦神社の境内社として佐留女神社があり、その祭神が、天照大神が天岩屋の中に入られ、世の中が荒れ暗闇のよくなつた時に岩戸の前で天舞踊された天宇受命であること、芸能の神として信仰されていることを知ることができた。

このようにして私なりに長きにわたりて参拝してきた伊勢神宮への参拝であったが、いままでに猿田彦神社に参拝させていたいたことはなかつた。猿田彦神社は内宮のすぐ近くに鎮座していることもあつて、いつも、私は、外宮同様、バスの車窓から手を合わせ通り過ぎ内宮に向かつていたのである。しかし、今般、ついに猿田彦神社に参拝した。それは、高校時代の同級生から参拝するよう勧められ

いたが、なぜ、どのような理由で参拝させていたいたことはなかつた。猿田彦神社がこの伊勢の地に鎮座されるようになったのかの理由を私は理解できていないが、この伊勢の地を訪れるたびごとに、少しづつ日本という素晴らしい国の神々のことを知ることができる幸せな時間を過ごせている。これまでの外宮と内宮を参拝させていたが旅からその周辺も少しすづ知ることができる旅をしていきたい。